

政策提言書
おおい町鍋計画
(3) 儲かる中山間地農業

6 班 DAIKEI 地域政策 Lab

○チーム紹介 (1 ページ)

班番号	6 班
チーム名称	DAIKEI 地域政策 Lab
学校・学部・学科 (所属ゼミ) ゼミ専攻等	大阪経済大学経済学部地域政策学科 梅村ゼミ (地域政策学)

○チームメンバー

氏名	紹介
リーダー 川谷 光輝	男 21 歳 3 回生 経済学部地域政策学科
杉 悠介	男 21 歳 3 回生 経済学部地域政策学科
添田 祐馬	男 21 歳 3 回生 経済学部地域政策学科
齋山 智哉	男 21 歳 3 回生 経済学部地域政策学科
伊福 ゆきの	女 20 歳 3 回生 経済学部地域政策学科
梅村 仁	大阪経済大学経済学部地域政策学科教授

○WEB・SNS、チームPRなど自由記載

私たちは大阪経済大学経済学部の梅村ゼミに所属しています。私たちのゼミでは地域政策を専攻しており、様々な地域に訪れ、その地域の企業の方々や自治体の方々とも交流を行う機会が多々あります。今回の政策プランコンテストでは、今までの経験を生かし、より良い政策を提言します。

現状

- 平成18年の合併以前から人口減少が続いていると同時に、少子高齢化が急速に進行しており、人口構造が変化し、中長期的な視点において、まちの活力やコミュニティの維持について難しい局面を迎えている。

課題

- おおい町の財政を支えている大半が大飯発電所でそれに続く産業がないため、新しい財政源が必要となっている。

基本方針

- 政策1：おおい町鍋計画
屋外に畳を敷き、そこで鍋を食べる。
- 政策2：スーパー大火勢での畳貸出
観覧席での畳の貸し出し。

目標

- 地産地食をきっかけに、まち全体から地元経済を見直し、観光客を増加させ、まちの活性化を促す。
- 原発に次ぐ財政となる農業の発展を実現する。

はじめに

私たちはおおい町の現状を知り、大飯発電所にかわる財政を支えるのは農業であると考えた。そのため、教授の協力のもとに地元の農業に詳しい地域おこし協力隊、名田庄商会、青戸ベイサイドヒルズ、合同会社ファームスリーユーの方々にヒアリングをさせていただいた。これらの声のもとに、テーマである「儲ける中山間地農業」に沿った政策を提言する。

調査の結果 図1

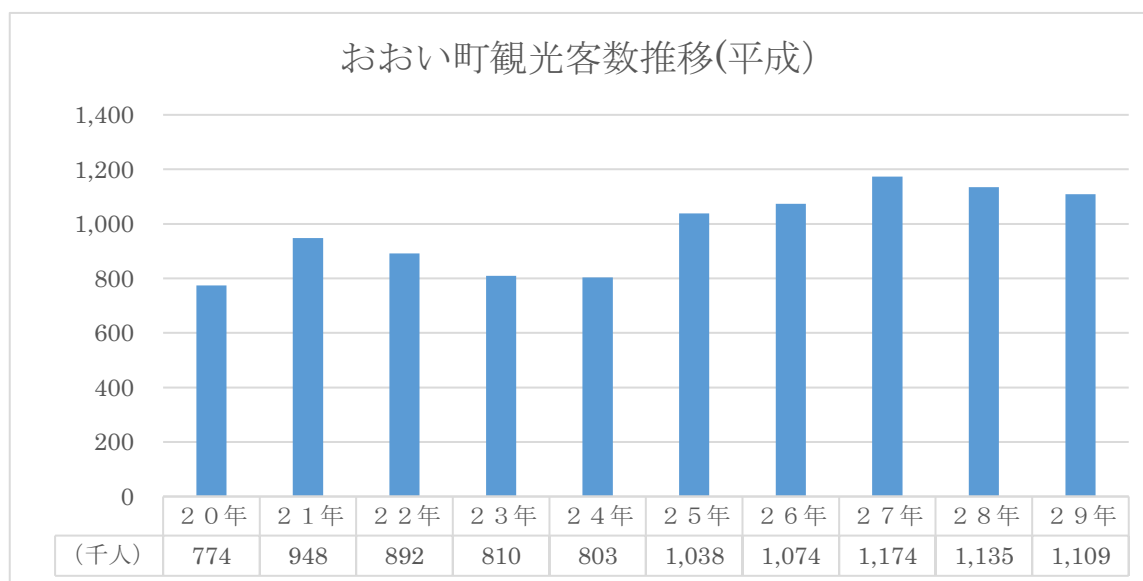
プラスな点	マイナスな点
自然が豊か	飲食店が少ない
空気がきれい	交通の便が少ない
観光施設が安価	知名度がない
星がきれい	ブランド力が低い

ヒアリング先：地域おこし協力隊、名田庄商会、青戸ベイサイドヒルズ
合同会社ファームスリーユー、ホテルパスタタイム

観光客数の現状

平成20年～29年の観光客調査では20年～24年までは観光客数が少なく、100万人にも満たない数字であったが、平成25年にうみんぴあ大飯が完成した影響もあり、100万人を超し、観光客数は増加した。しかし、平成27年度を境に徐々に観光客数は減少傾向にあり、117万4千人から110万9千人になっている。

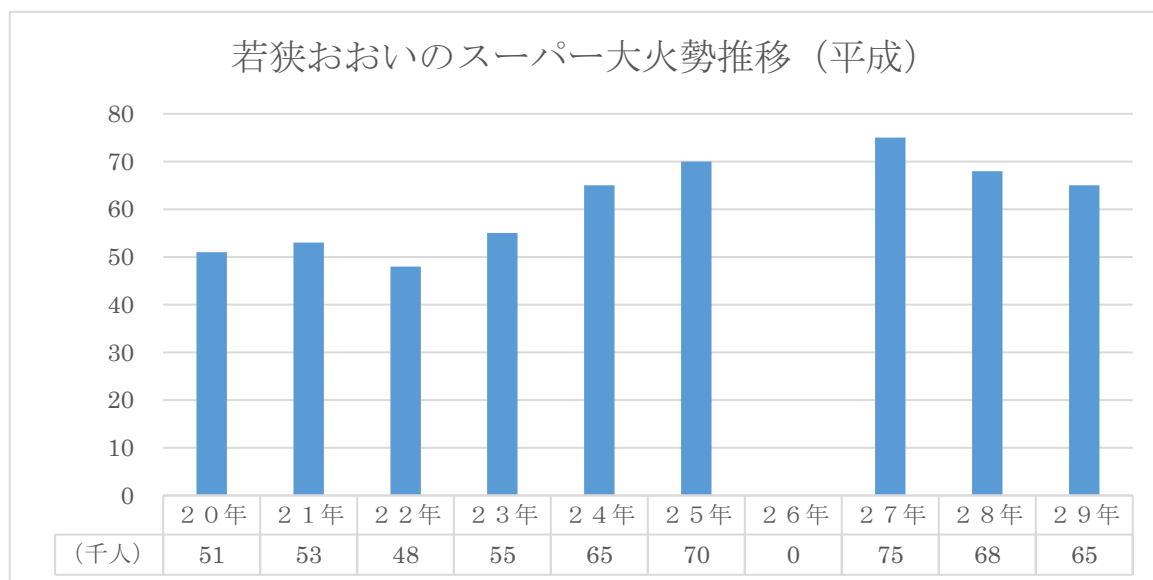
図2



「福井県観光客入込数」

若狭おおいのスーパー大火勢の入込数は観光客数と同じく、平成 20～24 年までは低い数値だが、25 年にうみんぴあ大飯が完成し高い数値となっている。だが、27 年以降、減少傾向となっている。

図 3



※平成 26 年は台風の影響で中止のため 0
「福井県観光客入込数」

2つのグラフを見て、観光客数にばらつきがあり安定していない点、うみんぴあ大飯などができて一時的に数値が上がっても、また減少傾向になっている点が課題であるとする。

おおい町の財政の現状

図 4

年度(平成)	原発収入(円)
28年	66億4161万
29年	64億3000万
30年	52億626万

「福井新聞 ONLINE」

上記の結果から、おおい町の原発収入は年々減少していることがわかる。また、平成 30 年には原発収入が、歳入全体の 60.7%を占めている。現在、おおい町の財政を支えているのは大飯発電所である。そして今年になり、4基のうち2基廃炉になっており、今後も財政収入が減少するとみられる。

おおい町の現在の課題

現在、おおい町の収入源は約 60%を原発に頼っており、原発に続く財政源を確保できていない。第 2 の財政源に期待している農業でも、「他地域のブランド力には勝てていない。」と、儲けることをあきらめたような発言をする農家の方々もいた。また、観光客数も、うみんぴあ大飯が完成して以来、上昇していたがここ 2 年減少しており、若狭おおいのスーパー大火勢も同じく町一番の大イベントにもかかわらず少し物足りない数字となっている。

基本体制

現在のおおい町の課題は先ほど述べたように、観光客減少と原発に続く財政源の確保であり、おおい町の知名度を高めることが重要と考えた。方針としてまずはおおい町の住人の方に地元の食材を食べてもらうことである。地産地消ではなく、地産地食を目指す。その結果、中山間地をコミュニケーションのとれる場所に変え、地産地食をメインとして、地元経済を作り直し、農業活性化、観光客誘致を目指す。

実施に際して

実施に際してはリーダーとなるべき人材が必要となる。そのためには、行政ではなく民営で行われる第 3 セクターの協力が不可欠である。私たちは、おおい町の中でも一番の観光客誘致となっているうみんぴあ大飯を建設した、「わかさ大飯マリンワールド株式会社」やフィールドワークの際にインタビューをさせてもらった「名田庄商会」などに提案する予定である。このような政策を行う際に、自分たちが「ゲスト」でなく、「ホスト」であると自覚するために「全部自分事」をスローガンに政策を行う。

政策提言

政策 1 おおい町鍋計画

政策概要

おおい町の農産物を地元の方、観光客の方に食べてもらうために計画する。おおい町の特産品を使用した鍋を地域住民、観光客みんなで食べ、地元の食材の良さを認識することとしている。そして、農産物を売り込む場の提供にもなる。今回の政策は目先の利益ではなく、最終的に利益を上げることを目指す長期的な政策である。そのための基盤となる地域コミュニティの場を作することを目的とする。

参考 1 畳座

あらゆる場所に畳を敷きその上に机、カセットコンロを設置する。カセットコンロは電気を使わないため電力の供給の難しい屋外であっても実現可能である。これは、兵庫県姫路市の商店街で行われたものを例にしている。姫路市では、商店街に畳を敷き詰めて宴会場にし、商店街や住民共同で町を盛り上げようとするイベントで、毎回 700 人を超える参加者がいる。



姫路畳座の様子「姫路コンベンションサポート」

参考 2 つながるカレー

まちづくりコンサルタントの田邊寛子さんが主宰する「小鍋会」。この特徴に場づくりの方法にプレゼンテーションの前に鍋を食べるといったものがある。プレゼンの後ではなく、前に食事を行うところが特徴的である。田邊さんは「食べることの力は絶大、わざわざ打ち解けるための活動を準備しなくても鍋を炊けばいい」と述べている。つまり、鍋は人と人との距離を調整する役割を持ち、心身ともに暖かくなり不思議な親近感を生み出すとしている。



「つながるカレー」

開催場所、時期

開催場所は、うみんぴあ大飯を計画。うみんぴあ大飯は JR 小浜線、若狭本郷駅から徒歩約 13 分とアクセスしやすく、また駐車場も広く車での来場者が多い場合でも対応が可能。畳を敷く場所は、子ども家族館の左手にある芝の上。海沿いのため景観もよいため。屋外に畳を直置きすると痛むのが早くなるためブルーシートの上などに置く。

図 5



図 6



「グーグルマップ」

開催時期は4月上旬、10月下旬の年2回を予定。屋外での企画となるため、気温が高い場合や低すぎる場合は客数が見込めないため、春と秋の二回の開催にする。時間帯は16時～21時の約5時間。おおい町の日の入りは17時～18時半頃のため、夕陽を見ながらの食事が可能。また、若狭本郷駅の終電は、敦賀・小浜方面が21時49分、東舞鶴・西舞鶴方面は21時31分とかなり早いため、早めの時間に設定する。

おおい町日の出日の入り時間 図7

	日の出時刻	日の入り時刻
2018年04月01日	05:44:18 AM	06:18:38 PM
2018年10月18日	06:06:12 AM	05:19:16 PM

「おおい町日の出日の入り時間」

入場料・開催内容

入場料は大人1人2,000円、子供(小学生以下)1人1,000円とする。1人から受け付ける。ただし、衛生面において他人との食事を好まない場合もあるので、3人以上の団体席と1人から入れる席と分けておく。

流れはまず、道の駅うみんぴあ大飯にて受付を行い、食材を受け取る(1人分ずつ小分けにし、紙皿に入れたもの)。そして広場にある畳の上に案内し各自はじめてもらう。

具材の内容は以下のとおり。

図8

材料	単価	一人分
鶏肉	108円/100g	108円
白菜	148円/1/4切	50円/1/12切れ
しいたけ	98円/65g	40円/30g
長ネギ	89円/1本	30円/1/3本
大根	138円/1本	15円/1/10本
人参	188円/3本	15円/1/4本
合計金額		約258円

※スーパーでの価格を参考にしたため多少の誤差が生じる恐れあり

飲み物は各自持ち込みとその場での販売も有り。アルコールの持ち込みも可とし、販売も行う。こちらでの飲み物は卸売業者から買い、安く仕入れる。

必要資材

図 9

品名	価格	個数	金額
ガスボンベ (3 個入り)	300 円	84 個	25,200 円
畳	5,000 円	250 枚	1,250,000 円
机	9,000 円	125 台	1,125,000 円
消耗品			
カセットコンロ	3,000 円	125 個	375,000 円
割り箸 (5000 個入)	7,500 円	1 袋	7,500 円
紙皿 (5000 個入)	7,500 円	2 袋	15,000 円
鍋	2,000 円	250 個	500,000 円
合計金額			3,297,500 円

※参加想定人数を 500 人と仮定した場合

(8 人 1 組で畳を 4 枚使用。カセットコンロは 4 人に 1 つ。ボンベはカセットコンロ 1 つにつき 2 本配布。)

初回開催以降は、カセットコンロ、ガスボンベ、畳、机に関しては次回以降も使用する。

単品で購入した際の値段のため、費用はさらに減額する見込み。

政策 2 スーパー大火勢

政策概要

毎年、8 月上旬に開催されるイベント、スーパー大火勢での畳貸出しの活動。

スーパー大火勢は、17 時 30 分～21 時までの間、様々なイベントが行われる。その際に観覧する観客が快適に見られるように畳を貸出しその上に座りイベントを観覧してもらうことが狙い。スーパー大火勢は平成 29 年に 65,000 人の入込数があるが、さらに人数を増やすこと、畳を使い、快適にイベントを見ることが目的である。

政策内容

スーパー大火勢のイベント時に、畳を観光客に貸し出す。畳は 1 畳に 2 人座れるので、ドリンクを 2 本つけ、1,000 円で貸出しを行う。さらに、スーパー大火勢の有料席「オリジナルシート付き大火勢満喫席」での貸し出しを行う。もともとの有料席では、60×60 のオリジナルシートを 1,000 円で貸出ししているが、畳の場合は、1 畳が 182×91 と大きくさらにドリンクを 1 本つけ 1,000 円とする。広さも、かなり広くなり快適に観覧が可能となる。

図 10

	縦×横 (cm)	面積 (cm ²)
オリジナルシート	60×60	3600
畳	182×91	16562

利益

今回の政策でかかる費用は以下の通り

1 年次 損益書 図 11

売上		
4 月開催	1,000,000 円	500 人×2,000 円
10 月開催	1,000,000 円	500 人×2,000 円
スーパー大火勢	500,000 円	500 人×1,000 円
合計	2,500,000 円	
費用		
初期投資 (4 月開催込)	3,240,000 円	図 9+材料費
10 月開催	176,700 円	消耗品+材料費
合計	3,600,700 円	
利益	△1,100,700 円	

2 年次 損益書 図 12

売上		
4 月開催	1,000,000 円	500 人×2,000 円
10 月開催	1,000,000 円	500 人×2,000 円
スーパー大火勢	500,000 円	500 人×1,000 円
合計	2,500,000 円	
費用		
4 月開催	176,700 円	消耗品+材料費
10 月開催	176,700 円	消耗品+材料費
合計	353,400 円	
利益	2,146,600 円	

1 年次 4 月開催は畳、鍋、ガスコンロなどの購入があるため約 324 万円と費用が高くなっているが、次回以降の鍋計画では消耗品と材料費のみのため費用は約 17 万円と低くなっている。そのため、1 年次の費用合計は約 360 万円だが、2 年次では約 35 万円となる予定である。損失額も 1 年次は約 110 万円の赤字となるが 2 年次では黒字になる計算となる。しかし、今回の計

算では 500 人の来客数が来ることを前提に計算していること、ドリンクやアルコール等の利益を計算に入れていないため、数字に若干の変動が起こることが予想される。だが、安定した来客数を得ることができれば、3 年以内に黒字になる見込みがある。

広告方法

広告方法は主に若者が使用する SNS やネットを使用、うみんぴあ大飯のホームページでも情報を発信していく。しかし、おおい町では 40 歳以上が約 60% とネットを使用していない可能性も高いため、貼り紙や放送でも行う。

課題

1 つ目は、食材管理における衛生面、特に鍋物に使用する生鮮食品類の衛生管理を徹底しなくてはならない点である。2 つ目は、人件費の問題だ。量を 500 人分敷くことや片付け、またスーパー大火勢有料席の用意、片付けなど人手が多くかかる部分が増えている。人手は私たち大阪経済大学梅村ゼミナールのメンバーがボランティアとして参加し、補うことも考えている。3 つ目は広告方法である。おおい町での地域の方への知らせかたがまだ確定しておらず、町内放送や、チラシ貼りなど有効な手段を見つけていくことが必要である。

最後に

フィールドワーク、文献調査を行いおおい町では現在、横のつながりが薄いということが分かった。今回の我々の政策を機に地域コミュニティの場を創出し、横のつながりを強化することと同時に、おおい町の知名度を上げ、他地域からの観光客を増やせるようにしたい。それをきっかけに、おおい町の農産物が他地域に出回り農業が活性化し新たな財政源へとつなげられることを願う。

今回はこのような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

参考文献

おおい町人口ビジョン平成 28 年 3 月 2018 年 10 月 14 日(日)

https://www.town.ohi.fukui.jp/1002/1209/100/p13813_d/fil/0000000155_0000007359.pdf

福井県観光客入込数平成 20 年～29 年 2018 年 10 月 14 日(日)

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kankou/fukuiken-kankoukyakusu.html>

フクナワ～福井と沖縄、原発と基地のニュースサイト～ 2018 年 2 月 21 日(水)

<http://fukunawa.com/fukui/33908.html>

畳座 | NPO 法人姫路コンベンションサポート 2018 年 10 月 13 日(土)

<https://denpakudo.jp/tatamiza/>

つながるカレー コミュニケーションを「味わう」場所を作る

加藤文俊 木村健世 木村亜維子 フィルムアート社 2014 年 7 月 10 日初版出版

グーグルマップ 2018 年 10 月 14 日(日)

<https://www.google.com/maps/place/%E9%81%93%E3%81%AE%E9%A7%85+%E3%81%86%E3%81%BF%E3%82%93%E3%81%B4%E3%81%82%E5%A4%A7%E9%A3%AF/@35.4712755,135.5843404,13z/data=!4m5!3m4!1s0x6001d37a7d2ddc11:0x69935776c82acb7b!8m2!3d35.481499!4d135.6295869>

日本、福井県大飯郡おおい町日の出日の入り時間 2018 年 10 月 15 日(月)

http://sunrise.maplogs.com/ja/oi_oi_district_fukui_prefecture_japan.66449.html